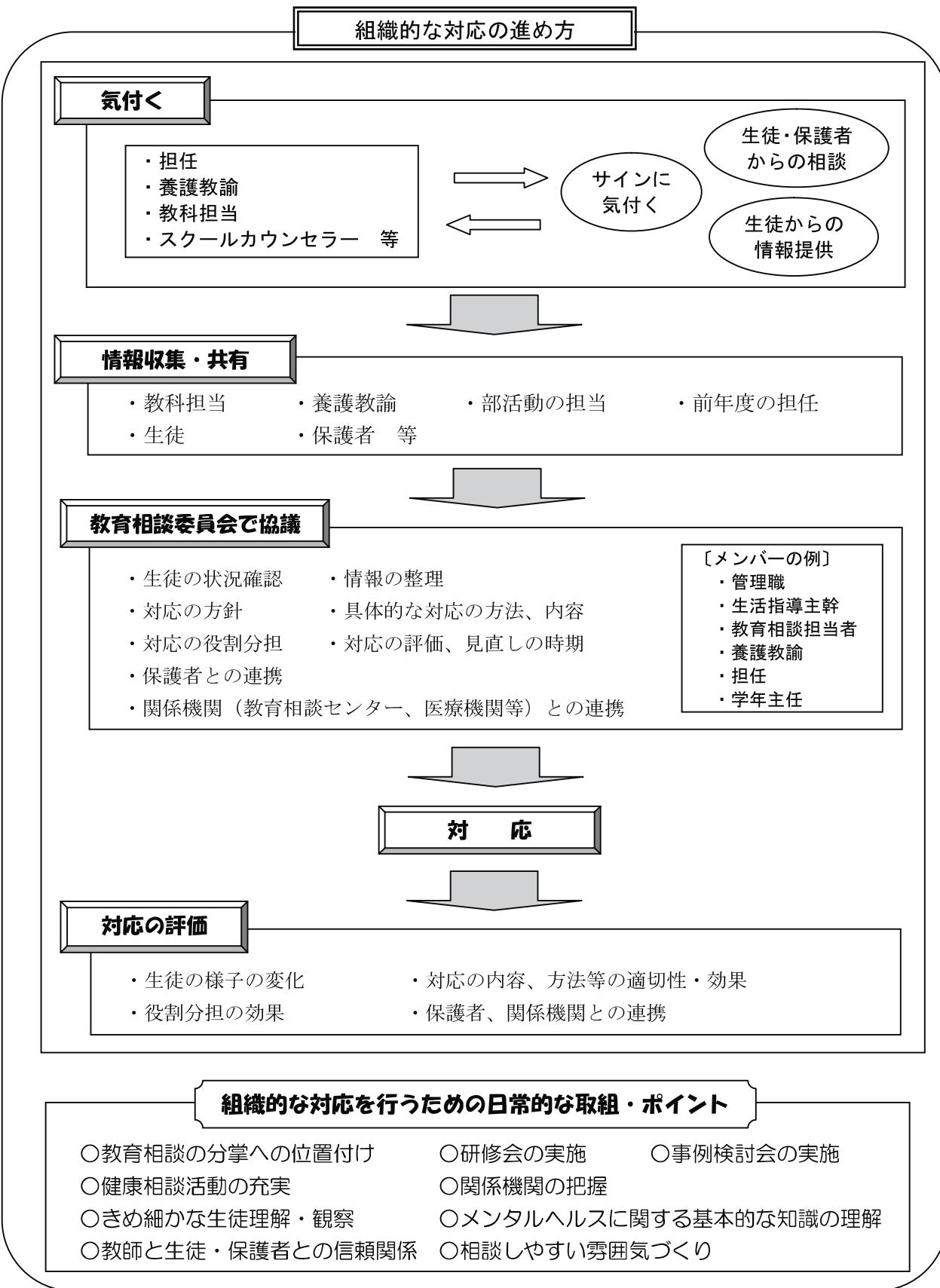


II 気がかりな生徒への対応

1 組織的な対応

気がかりな生徒に対しては、かかわった教師が一人で対応するのではなく、組織的な対応が必要である。組織的な対応により、多角的な視点から生徒を捉えること、教職員全体での共通理解、対応の役割を分担することが可能となり、生徒への対応が効果的となる。



2 生徒の様子の変化・サインへの気付き

日ごろから生徒の様子を丁寧に観察し、以前の行動との変化や生徒が発するサインに気付くことが大切である。

ここでは、サインを「身体」、「行動・態度」、「対人関係」の3項目から分類するが、サインの内容や表われ方は個々により違うものであることを十分に認識し、理解することが重要である。

気になるサインの例

身体に見られるサイン
<input type="checkbox"/> 疲れている、睡眠不足のように見える。
<input type="checkbox"/> 食欲が急に落ちているように見える。
<input type="checkbox"/> 最近、極端にやせてきた、または太ってきた。
<input type="checkbox"/> 様々な身体の不調、体がだるい等の不定愁訴を訴える。
行動・態度に現れるサイン
<input type="checkbox"/> 遅刻や欠席が目立ってきた。
<input type="checkbox"/> 成績が急激に下がった。
<input type="checkbox"/> 課題等の提出物を出さなくなった。
<input type="checkbox"/> 集中できていない様子で、いつもなら簡単にこなせる課題が達成できない。
<input type="checkbox"/> 関心のあったことに興味をなくす。
<input type="checkbox"/> 部活動を休みがちだったり、やめてしまったりしている。
<input type="checkbox"/> 保健室を頻繁に利用する。
<input type="checkbox"/> ぼんやりした態度が目立つ。
<input type="checkbox"/> おどおどした態度や落ち着きのない態度が目立つ。
<input type="checkbox"/> 不機嫌でイライラしている。
<input type="checkbox"/> 攻撃的・衝動的な行動が多くなる。
<input type="checkbox"/> 投げやりな態度が目立つ。
<input type="checkbox"/> 急に服装や髪型が派手になったり、挑発的な行動等が見られるようになった。
<input type="checkbox"/> 家出や放浪、無謀なけんかをする。
<input type="checkbox"/> 教師を避けたり、教師と視線を合わせなかつたりする。
<input type="checkbox"/> 用事がないのに職員室に入ったり、トイレ等に閉じこもつたりする。
<input type="checkbox"/> 突然泣き出す、急に大声を出すなど、情緒不安定である。
<input type="checkbox"/> 顔の表情が乏しい。
<input type="checkbox"/> だらしなく、身だしなみに気を配らなくなっている。
<input type="checkbox"/> プツプツ独り言を言う。
<input type="checkbox"/> 不潔恐怖や、書いたり消したりを繰り返すなど強迫的である。
<input type="checkbox"/> リストカット、過剰服薬、飛び降り等のそぶり等を見せる。
<input type="checkbox"/> 自殺や死についての文章や絵を書いたり、自殺予告の電話、メール、ブログ・プロフ等への書き込みをする。
<input type="checkbox"/> 自殺サイト等へのアクセスが見られる。
<input type="checkbox"/> 具体的に自殺の計画を立てる。
<input type="checkbox"/> 遺書を書いたり、お別れのプレゼントを渡したりする。
対人関係に現れるサイン
<input type="checkbox"/> 視線が合いにくい。または、合ったときの印象に違和感がある。
<input type="checkbox"/> 自分勝手な思い込みが強い。別の考えは受け入れにくく、融通がきかない。
<input type="checkbox"/> 場の雰囲気や暗黙のルールを理解しにくいところがある。
<input type="checkbox"/> 登下校時に、一人だけである。または友達に避けられている。
<input type="checkbox"/> ほとんど誰ともしゃべらない、関係をもたない。または、一方的にしゃべる。
<input type="checkbox"/> 友達とのトラブルが絶えない。または孤立している。
<input type="checkbox"/> 恋愛関係や性に関する悩み（トラブル）が見られる。

3 対応例

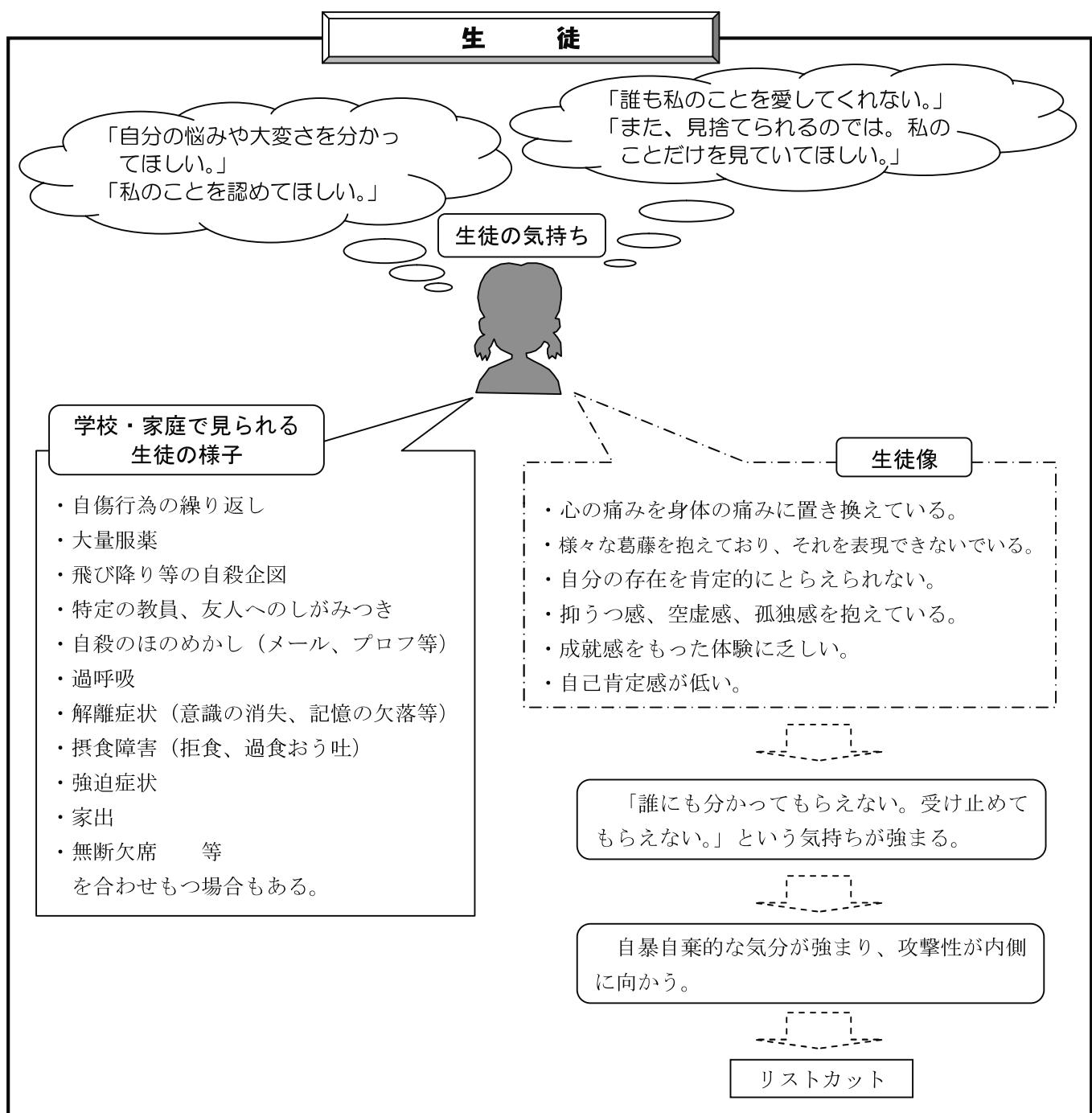
「気がかりな生徒」の中でも、「リストカットを繰り返す生徒」、「こだわりを示す生徒」、「逸脱行動のある生徒」及び「気付かれにくい生徒」の4事例についての対応を示す。

なお、いずれの事例についても、教育相談センターがかかわった事例に大幅な修正を加えたものである。

(1) 「リストカットを繰り返す生徒」の事例

1年生 女子

- ・入学早々から、体調不良、過呼吸、不眠など、様々な身体症状を訴え、保健室に通っていた。
- ・夏季休業日明けに保健室に来たときに、休み中に家でリストカットしたことを話した。その後は、家で大量服薬をすることもあった。
- ・養護教諭が保護者に伝えようとしたが、本人がかたくなに拒んだ。



学校の対応

生徒へのかかわり

- リストカットは自殺の危険を示すサインであることを念頭に置き、あわてず、冷静に、そして真剣に対応する。
- 自傷行為をせざるをえない気持ち、状態を理解しようという姿勢でかかわる。生徒の苦しみを受け止める。
- 頭ごなしに、「自傷行為をやめなさい」と言わない。
- 「自傷行為をした」と言えたことを評価する。
- 枠（時間、場所の制限）を決め、常に一定の対応をする。
- 対応に疲れたからといって、急に生徒との関係を切らないようにする。

「携帯電話やメールへの対応は、夜間や休日はできない」等を学校内で共通理解し、一定の距離を保ち続けることが、教員の疲弊及び生徒の行動化を防ぐことになります。

リストカットや大量服薬をしなくとも、一定の曜日や時間に、あなたの話を聞くよ、ということを分かってもらいます。

校内体制

- 一人で抱え込まない。生徒の話を丁寧に聞く中で、かかわった教員一人では支えきれないことを説明し、他の特定の教職員に伝えることを理解してもらう。
- 管理職に、報告・連絡・相談をする。
- 生徒の行動や対応したときの様子等を記録に付ける。
- 生徒の対応について、校内で役割分担をする。
- 校内の施設や物品等、安全管理を再確認し、徹底する。

役割分担の例

生徒の対応：当該生徒にかかわる教職員（担任、部活動の顧問、養護教諭等）

対応の記録：担任　　保護者の対応：担任・副校長　　主治医との連携：担任・養護教諭

保護者との連携

- 生徒の保護者に連絡をとつてもらいたくないという気持ちに共感しながらも、保護者に分かってもらうことの必要性を伝え、説得する。
- 関係機関（医療、福祉等）に紹介し、対応を依頼する場合には、学校と保護者との信頼関係のもとに行う。

保護者の中には、学校からの子供にかかわる連絡を聞き入れなかったり、時には来校を拒否することもあります。しかし、子供のことが心配である、守りたい、一緒によりよい対応を考えていきたい、ということを、粘り強く説明することが大切です。

入院が必要な事例であると医師が判断していても、本人、保護者の了解を得られないことがあります。本人、保護者には、「学校で大量服薬やひどい自傷行為を行ったら、命を守るために救急車を呼ぶ」等の約束を、あらかじめ伝えておくことも大切です。

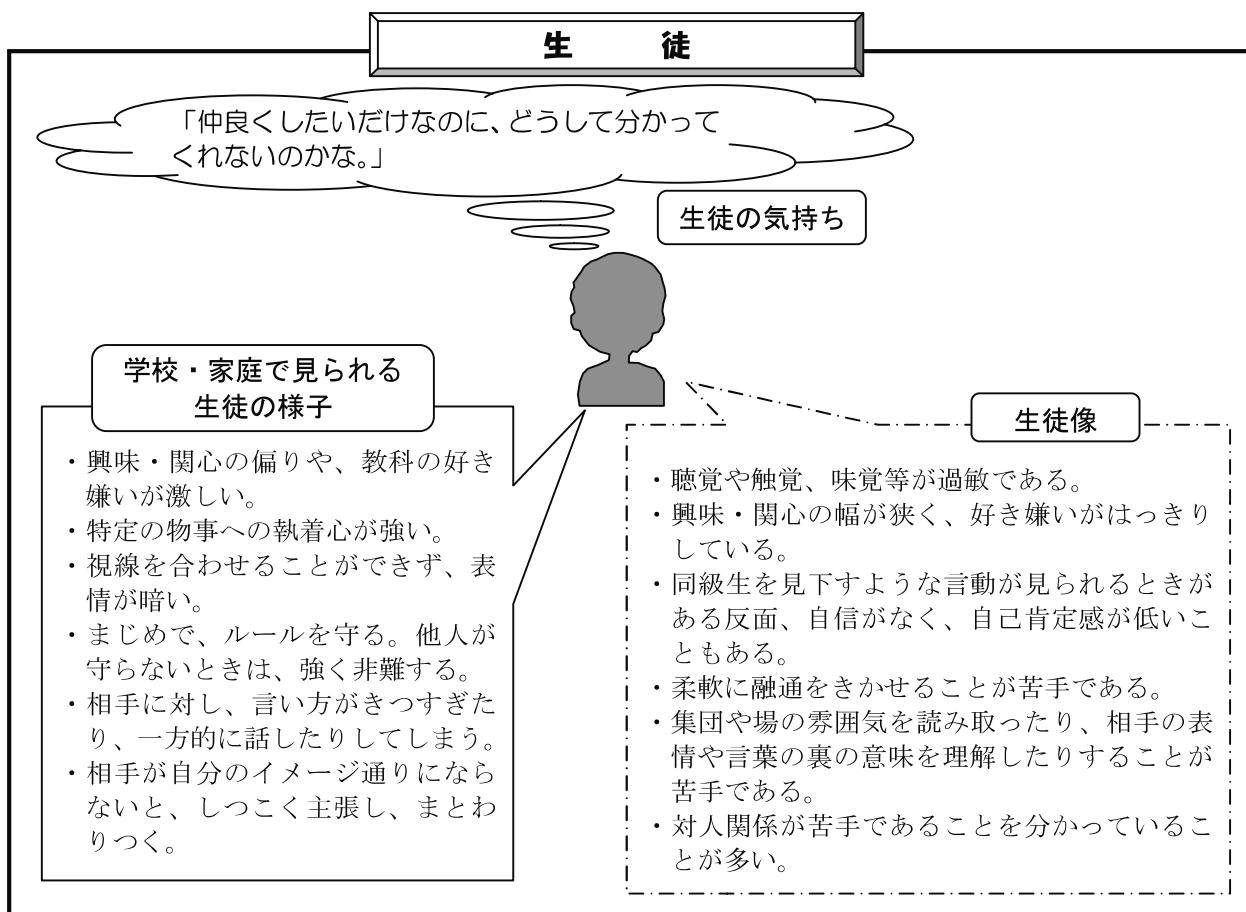
関係機関との連携

- 教育相談センターに相談し、生徒の見立てやかかわり方の助言を求める。
- 本人が受診・通院している医療機関と連携し、学校での日常的な対応、行事等への参加、緊急時の対処の仕方等の助言を求める。

(2) 「こだわりを示す生徒」の事例

1年生 男子

- ・入学当初から遅刻、欠席もなく、提出物を欠かさず出していた。また、図書委員になり、図書室の本の整理を毎日行っていた。おとなしい性格だが、「他の図書委員が、決められた仕事をしない。並べ方がいい加減だ。」と、突然怒り出してしまうことがあった。
- ・異性の親しい友人ができたが、その彼女に1日数十通ものメールを送ったり、一緒に帰ろうと毎日待ち伏せをした。恐怖感から彼女は別れようとするが、なぜそう考えるのか理解できない。



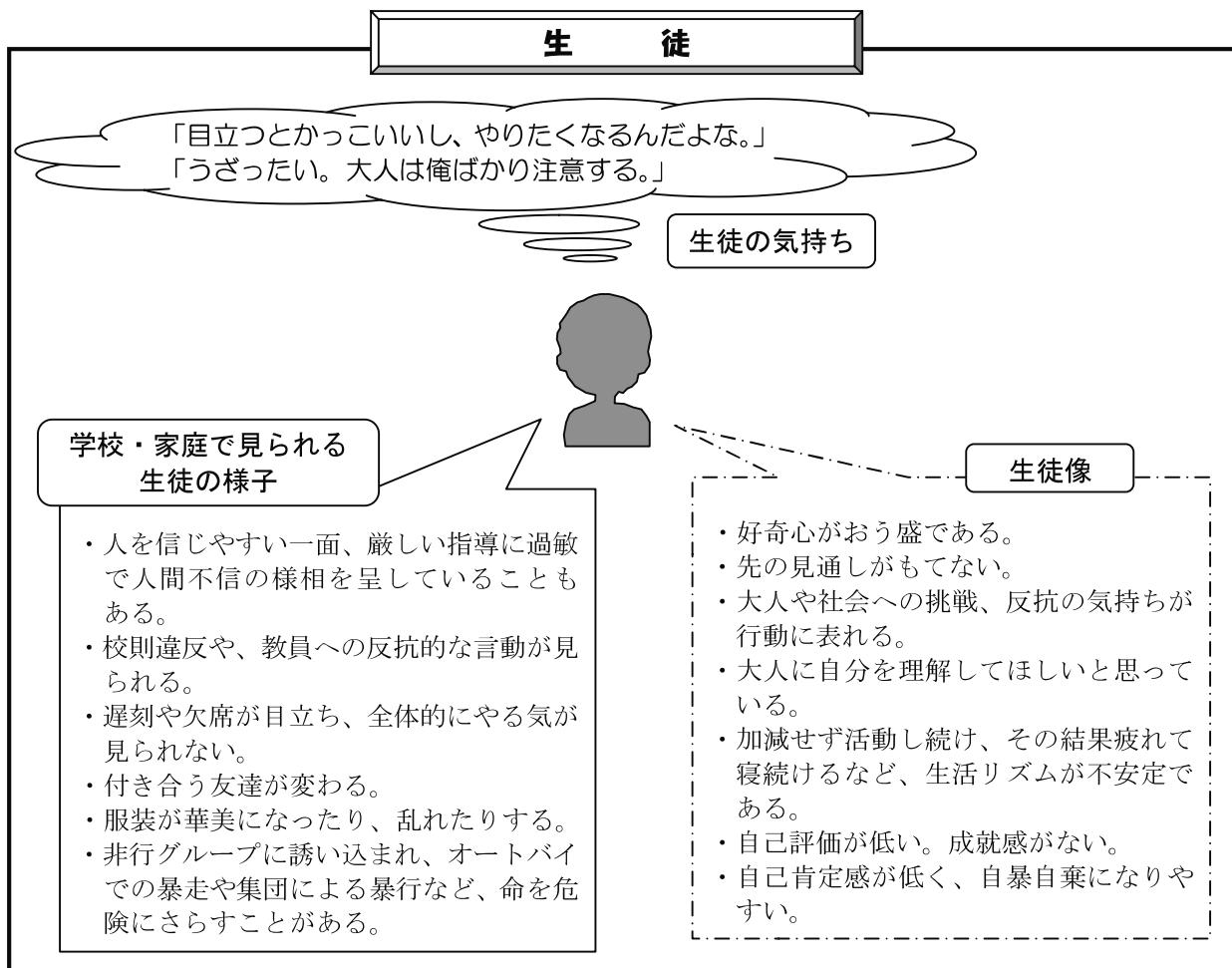
- 本人の気持ちや悩み、考えていることを聞く。
- なぜ対人関係をうまく保つことができないのか、相手の気持ちや自分の行動について、落ち着いているときに生徒と共に考える。
- 「望ましい行動」について、具体的な分かりやすい言葉を端的に伝えるほか、視覚的な方法を用いて示す。
- 混乱に陥ったとき、又は陥りそうなときの対処方法（落ち着く場所、人）を、前もって本人と確認しておく。
- 良い面（正直、几帳面、興味のあることへの集中力、約束を守る、決められたことは最後までやり遂げる等）を認め、適切な評価を行い、自尊心を高めていく。

学校の対応

(3) 「逸脱行動のある生徒」の事例

2年生 男子

- ・テニス部に入部したが、コート整備や球拾いを嫌がり、練習の不参加が増え、退部した。
- ・その後、他校の生徒と遊ぶようになり、髪型や制服の乱れが始まった。また、校内での喫煙が発覚、成績も急速に下がった。
- ・夜遊びがひどくなり、保護者にお金を要求して断られると、「学校なんか辞めてやる」と脅し、暴力を振るったり、無断外泊をするようになった。



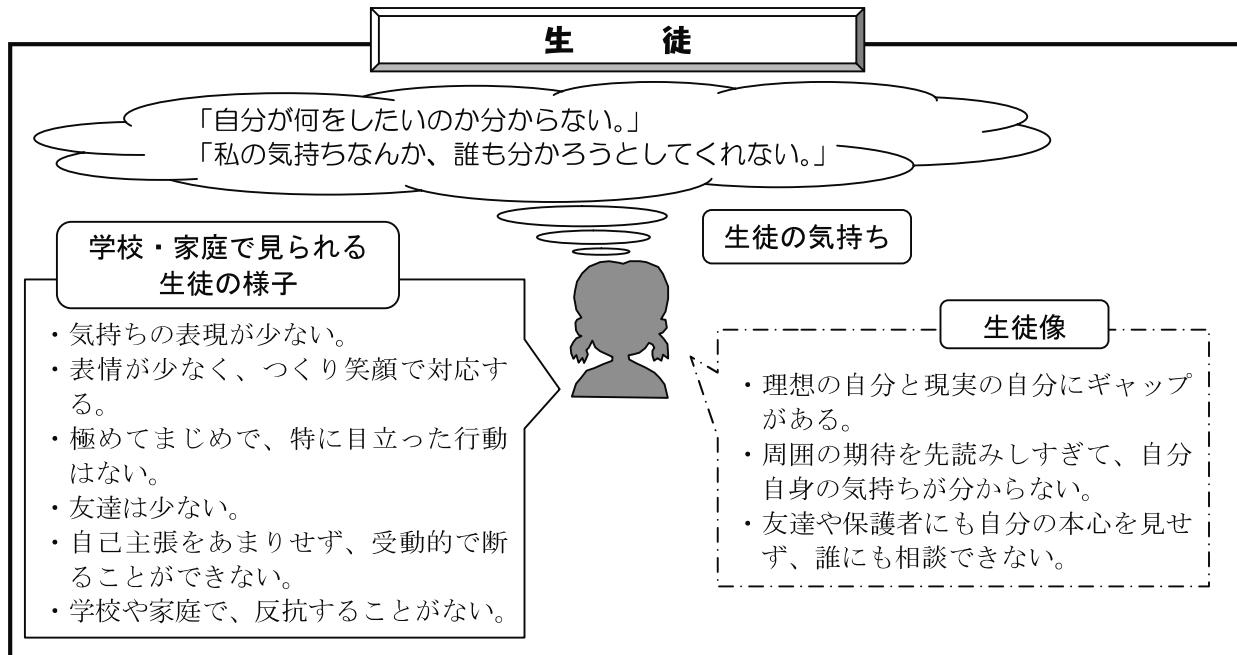
- 生徒の内面を理解した上で、声かけをすることが大切である。
- 人格を否定せず、生徒に積極的にかかわりをもつ。
- 生徒のよさを認め、具体的な言葉で生徒を励ますとともに、保護者にもそれを伝えていく。
- 逸脱行動については、き然とした態度で対応し、行動の修正を具体的に指導する。
- 逸脱行動の背景として、家族関係が要因の場合もある。保護者を責めるのではなく、本人の対応について共に考えていくという姿勢を示し、かかわっていく。
- 非行が進んでいる場合には、少年センターなどの関係機関との連携も考慮する。

学校の対応

(4) 「気付かれにくい生徒」の事例

3年生 女子

- ・気持ちの表現が苦手で、保護者に無理を言うこともなく成長してきた。
- ・学校では欠席・遅刻もなく、成績も上位であった。2年生になり、部活動の部長になることを頼まれた。負担感があったが断れず、誰にも相談せずに引き受けた。
- ・個人面接で、進路が決まっていないことを担任が聞くと、本人は「がんばります」と答えただけであった。その後、本人は薬物を大量に服薬したが、一命はとりとめた。



〈関係機関との連携〉

- 保護者の了解をとり、医療機関の見立て、治療の方法、今後の方針を聞き、学校での配慮事項を確認する。

〈自殺の予防に向けて〉

- 悩んでいる生徒の出す「少ないサイン」を察知し、声をかけて本人から話を聞く。
- 相談を受ける際は、「受容」と「共感」を原則とし、十分に「傾聴」する。また、自殺の危険が高まった場合に見られる様子や行動を理解して対応する。

学校の対応

参考

〔自殺に追い詰められる子供の心理〕

- ひどい孤立感
- 無価値感
- 強い怒り
- 苦しみが永遠に続くという思い込み
- 心理的視野狭窄

〔自殺につながる危険性のあるサインの例〕

- 突然の態度の変化
- 自殺をほのめかす言動
- 別れの用意
- 非常に危険な行為
- 自傷行為

〔自殺予防に向けての視点〕

- 自殺未遂歴がある。
- うつ病等心の病がある。
- 周囲からのサポートが十分に得られない状況がある。
- いじめをはじめとする心の悩みがある。
- 喪失体験がある。
- 事故を繰り返す傾向がある。
- 自殺の傾向が高まりやすい性格である。
- 他者の死の影響を受ける。
- 虐待を受けた経験がある。

〔「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」、「子供の命を守ろう～子供の自殺予防に向けて～」より〕